

## 1

## PCOの防除現場における皮膚被害及びアレルギー対策

元木 貢 (アペックス産業)

Dermatitis and allergic problem caused by insects in pest control industry

Motoki, M. (Apex Pest Control Co., Ltd.)

PCOの防除現場では、皮膚炎やアレルギー症状を引き起こすと考えられている害虫類が、しばしば防除対象になる。一方、皮膚科には虫刺れが原因だとして診察に訪れる患者も多いが、症状だけから原因を突き止めることは、専門医でもなかなか難しいようである。そこで、PCOと医者が連携することができれば、より確かな原因追及ができると考えられる。

## 1. PCO現場における皮膚被害に関するアンケート調査

日本ペストコントロール協会では、平成 21 年に PCO が実施した皮膚炎を伴う現場の実態及び医師との連携の状況をアンケート調査した。70 社から回答が得られ、そのうち皮膚炎を伴う依頼は 54%、伴わない依頼は 46% という回答であった。被害を伴うと回答した 37 社のうち、1 年に 11 件以上あったとした回答が 22 社 (40. 5%) にも及んでいた。原因別ではノミ>ハチ>トコジラミ>ドクガ・チャドクガ>ムカデ>ワクモ・トリサシダニ>ツメダニ>アリ>ヒゼンダニ>蚊>アリガタバチ>ヒョウヒダニ>シラミ>クモ=スズメサシダニ=ダニ恐怖症=不明の順であった。ダニ・虫恐怖症は 70 社合計で 163 件、そのうち「なし」は 41 社、1 社での最大件数は 32 件であった。ダニまたは昆虫の同定を行ったのは回答 44 社中 31 社 (70%)、行わなかったのは 13 社 (30%)、同定方法は「粘着クリーナーで採集し、実体顕微鏡で同定」が 23 社、「飽和食塩水浮遊法」が 12 社、簡易アレルギー検査 4 社、ELISA 法等が各 1 社であった。措置内容は薬剤散布>清掃>熱乾燥>病院を紹介>話し相手>説明・説得=同定報告書の提出の順で、何らかの措置に対し依頼者の大半が納得しているものの、今回の問いでは解決したかどうか、何を納得したのかは不明だった。連携する医師が「いる」が 4 社、「いない」が 40 社と、解決が難しいダニ問題では、まだまだ医師との連携が少ない現状が浮き彫りになった。

## 2. 皮膚科医と PCO の連携によるネコノミ対策事例

東京都内の皮膚科に虫刺されによる来診があり、ネコノミによる被害であることが判明した。PCO が自宅を調査したところ、タヌキが床下に巣を造っていたため、床下、室内、庭に殺虫剤を散布した。

## 3. 当社におけるトコジラミ防除事例

過去 3 年間に当社で行ったトコジラミの事例は、ホテル 6、簡易宿泊ホテル 2、マンション 2 で増加傾向にある。

## 4. PCO 現場におけるダニとその対策事例

当社で調査した一般住宅とビルのダニ相、調査法、殺虫剤による防除事例、環境整備などアレルギー対策事例について紹介する。